



第 192 回 学長定例記者会見 発表事項 1

令和 8 年 6 月 2 5 日

国連の SDGs（持続可能な開発目標）への  
貢献度ランキングで世界 77 位にランクイン！

イギリスの高等教育専門誌 Times Higher Education<sup>\*1</sup>が 2026 年 6 月 24 日、「THE サステナビリティ・インパクト・レーティング（旧インパクトランキング）2026」<sup>\*2</sup>を発表しました。

広島大学は、総合ランキングで世界 77 位（1,603 大学中）、国内 2 位（30 大学中）にランクインしました。本学が総合ランキングで世界トップ 100 にランクインしたのは今回が初めてです。これまでも 6 年連続で 101-200 位を維持してきましたが、地道な取り組みを積み重ねた結果、かねてより本学が掲げてきた世界トップ 100 という目標を達成することができました。

今回の成果は、本学が推進するカーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0 の取り組みをはじめ、2030 年の SDGs 達成に向けて、世界への貢献を地道に積み重ねてきた結果であると認識しています。特に近年はこれらの取り組みを積極的に社会に発信し、その成果や知見を還元してきたことが、今回の評価につながったものと考えます。

SDGs 項目別ランキングでは、以下のとおり、5 項目が世界トップ 50 にランクインしました。

項目		世界順位	
		今回	前回
SDG1	貧困をなくそう★	36 位	= 84 位
SDG2	飢餓をゼロに	46 位	101-200 位
SDG9	産業と技術革新の基盤をつくろう★	49 位	89 位
SDG15	陸の豊かさも守ろう★	37 位	41 位
SDG17	パートナーシップで目標を達成しよう★	42 位	= 67 位

★は総合スコア算出に使用された 4 項目

総合ランキングは、SDG17(パートナーシップで目標を達成しよう)を必須とし、SDG1 から SDG16 までで、SDG 間のスコアの分布の差などを加味した THE 独自の基準により選ばれた 3 項目のスコアを組み合わせ算出されます。

本学の総合スコアの算出に使用された項目は SDG1「貧困をなくそう」、9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、15「陸の豊かさも守ろう」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」でした。

SDG1 では、本学が共同研究や政策提言、能力開発を通じ、地域から世界レベルまで貧困対策に貢献していることが、また SDG9 では、産業界からの研究資金の受入増や、大学発ベンチャーの創出実績などが評価されたと考えられます。

一方、SDG15 では、環境省の「自然共生サイト」への認定を含む生物多様性保全に向けた取り組みをはじめ、今年 11 月に開館 20 周年を迎える総合博物館の活

動や、質・量共に充実している SDG に関連する研究も今回の評価につながりました。

さらに、SDG 17 では、平和で持続可能な未来に向けたパートナーシップ構築を目指す「NERPS 国際学術会議 (NERPS Conference)」の活動などが高く評価されました。

※総合ランキングで使用された 4 項目に関連する本学の具体的な取り組みの一部を別紙にて紹介しておりますので、ご参照ください。

本学は、新しい平和科学の理念である「持続可能な発展を導く科学」を実践する世界トップクラスの教育研究拠点を構築し、多様性を育む自由で平和な国際社会の実現に貢献する「平和を希求しチャレンジする国際的教養人」を育成してきました。今後も 2030 年の SDGs 達成、そしてその先の平和で持続可能な世界を実現するため、世界からその貢献が見える広島大学を目指し、活動を積み重ねてまいります。

※1= Times Higher Education (THE) とはイギリスの高等教育専門誌。大学の総合力を可視化する「THE 世界大学ランキング」をはじめ、地域別や分野別などさまざまな切り口で大学を評価している。

※2= THE サステナビリティ・インパクト・レーティングとは THE の各種ランキングで、国連の SDGs の枠組みを用いて大学の社会貢献度を評価するランキング。2019 年に「THE インパクトランキング」として始まり、8 回目となる 2026 年から「THE サステナビリティ・インパクト・レーティング」に名称を変更した。

URL : <https://www.timeshighereducation.com/impactrankings>

Times Higher Education  
**Sustainability Impact Ratings 2026**

世界トップ100

**世界77位を達成!**  
SDGs5項目で世界トップ50にランクイン!  
SDGs3項目が国内単独1位!

HIROSHIMA UNIVERSITY

国内1位	46位	49位	37位	42位
世界36位	2	9	15	17
1	2	9	15	17
世界96位	99位	国内1位	国内1位	
3	11	8	10	

【お問い合わせ先】

総合戦略室総合戦略グループ 新藤  
TEL:082-424-6444 FAX:082-424-6007  
MAIL: u-strategy@office.hiroshima-u.ac.jp

## SDG1、9、15、17に関連する本学の取り組み（抜粋）

本学では、各SDGに関連するさまざまな取り組みを通じてSDGs達成に貢献しています。今回総合ランキングに使用されたSDG1「貧困をなくそう」、9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、15「陸の豊かさも守ろう」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」の4項目に関する取り組みの一部をご紹介します。

### ●SDG1「貧困をなくそう」

- 本学は、共同研究や政策提言、能力開発を通じて、地方、地域、国内、世界レベルでの貧困対策に貢献しており、これらの取り組みに関する情報を集約し、HPで公開しています。

【広島大学の貧困対策における政策・ポリシー・取組を通じた貢献】

<https://nerps.hiroshima-u.ac.jp/efforts-list/efforts-list-4802/>

- 大学院医系科学研究科小児歯科学研究室では、2009年からカンボジアで歯科医療支援活動を実施しています。内戦により教員や医師・歯科医師の虐殺が生じ、1970年代後半に教育や医療が崩壊したため、未だに歯科医療や歯科保健の供給、歯科医師の養成が不十分なカンボジアで、本学歯学部は、NPO法人NGOひろしま「アジアの子どもの歯を守る会」や現地の大学歯学部などと協力して活動を続けています。当研究室は特に全体の企画や運営を引き受けるなど、活動の中心を担っています。



【カンボジアにおける歯科医療支援活動】

<https://pedo.hiroshima-u.ac.jp/laboratory/#labo01>

- 大学院統合生命科学研究科の島田昌之教授の研究グループは、2019年に簡便な雌雄産み分け法を応用したウシの人工授精法の研究成果を発表しました。翌年には、感染症と貧困の撲滅を目指すビル&メリンダ・ゲイツ財団から3年間で約270万米ドルの助成を受け、インドにおける貧困層の食料問題解決を目指し、雌牛の繁殖頭数を増やして牛乳生産量を高める研究を進め、実用化技術の開発に成功しました。この技術を世界に広めるためには、簡便で安価な精子保存法の実用化が不可欠です。そこで2025年、同財団からさらに約180万米ドルの助成を受け、同年10月からの3年間で新たな研究に取り組んでいます。インドの農業団体や政府研究機関と連携し、インド・アフリカ地域の小規模酪農家が高い生産性と適応性を備えた牛や水牛を入手できる環境を整え、収入の向上を目指しています。



【広島大学発の牛の人工授精のための精液保存法の研究に約 2.6 億円の助成が決定】

<https://drdc.hiroshima-u.ac.jp/260120-2/>

●SDG9「産業と技術革新の基盤をつくろう」

- 前回の本ランキングから、産業界からの研究資金の受入が増加したことに加え、研究成果をもとにした大学発ベンチャーの創出が進んでいることが評価につながったと考えられます。これらの成果は、本学が産学連携を通じて研究力を社会に還元し、新たな産業や価値の創出に貢献していることを示しています。

【大学発ベンチャー起業実績】

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/venture/kigyousisseki>

●SDG15「陸の豊かさを守ろう」

- 本学では、生態系保全のための教育の充実や、「カーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0」の実現に向けた取り組み、適切な廃棄物処理の徹底などを通じて、土地の豊かさを維持する活動を継続して推進してきました。近年は、これらの取り組みを積極的に公開し、その成果や知見の共有を図っています。
- 東広島キャンパスの「発見の小径 水辺ゾーン」は、環境省から「自然共生サイト」に認定されています。「自然共生サイト」とは、「民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」を環境省が認定する区域のことで、生物多様性の価値維持、質の向上が促進され、日本における30by30目標（2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標）達成への貢献が期待されます。長年にわたり東広島キャンパスの生物相を調査した総合博物館および東広島植物園のスタッフ、地元の方々、総合博物館公認の学生ボランティアCSR（キャンパス・チューデント・レンジャー）の活動が高く評価された結果と言えます。認定区域では、環境省や広島県のレッドデータブックに掲載されている昆虫類、植物、鳥類などの希少種が計53種確認されているほか、広島県のレッドデータブックに掲載されているニホンアカガエルが、区域内で毎年繁殖していることも明らかになっています。



「自然共生サイト」認定区域（黄色枠のエリア）



CSR 活動の様子

【自然散策道「発見の小径」】

<https://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~humuseum/hakken-no-komiti.html>

【CSR（キャンパス・スチューデント・レンジャー）】

<https://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~main/index.php/CSR>

●SDG17「パートナーシップで目標を達成しよう」

- 本項目では、SDGs 達成に向けた他機関との連携に加え、SDGs 報告書の発行、SDGs に関する教育など、対象大学の活動全体が評価されます。本学では、本学の SDGs 活動の拠点である広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点 (Network for Education and Research on Peace and Sustainability(NERPS))が開催する「NERPS 国際学術会議 (NERPS Conference)」や、大学院共通科目の実施、SDGs に関する公開講座・イベントの実施などの取り組みが総合的に評価されたものと考えております。
- NERPS は、2022 年以降、毎年「NERPS Conference」を開催しています。本会議は、学生、研究者、実務家が一堂に会し、平和で持続可能な未来に向けたトランスディシプリナリー研究および協働のためのパートナーシップの構築を目的としています。2026 年 3 月に国際連合大学と共同で東京の同大学本部にて開催した「2026 年 NERPS 国際学術会議 (NERPS 2026 Conference in Tokyo)」には、世界 37 か国の 152 の大学・研究機関から 322 人が参加し、多岐にわたる研究発表、専門家によるラウンドテーブル・ディスカッション、革新的ワークショップが実施され、合計 63 の分科会が開催されました。口頭発表は 242 件に上ったほか、今次会議で初めて 22 件のポスター発表が行われ、平和で持続可能な社会の実現に向けた取り組みにかかる情報と意見の交換やネットワークづくりの機会になりました。



【NERPS 2026 Conference in Tokyo】

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/notification/news/96671>